

ナブテスコ株式会社

2026年12月期第2四半期（中間期） 決算説明会資料

2026年8月5日

当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。
当資料に掲載されている内容のうち数値、比率は四捨五入して表示しています。
本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

本日は2026年12月期第2四半期決算説明会にご参加いただきありがとうございます。

当社は、2025年7月31日にComer Industries S.p.A.と締結した当社及び連結子会社の油圧機器事業に係る株式譲渡契約に基づき、新たに設立した完全子会社（コムテスコ株式会社）に同年12月31日付で同事業を吸収分割の方法により集約し、コムテスコ株式会社の発行済株式の70%について、2026年1月1日付で譲渡を完了しました。これにより、コムテスコ株式会社は当社の持分法適用会社となりました。また、2025年12月期の実績については、油圧機器事業を非継続事業に分類したことにより、売上高、営業利益、税引前利益について、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示し、中間利益（当期利益）、親会社の所有者に帰属する中間利益（当期利益）は、継続事業及び非継続事業の合算を表示しています。

本日の説明会の前提条件はお示しの通りです。

1. 今回のポイント

CEO 木村 和正

2. 連結業績概要および見通し

常務執行役員 企画 経理 情報システム コーポレート・コミュニケーション管掌
碓井 浩

3. 補足資料

本日は、まず今回のポイントをCEOの木村から、
次に、連結業績概要および見通しについて常務執行役員の碓井よりご説明申し上げます。

1. 今回のポイント

CEO 木村 和正

1-1. 業績ハイライト

Innovation In Action
Vision 2030

2026年12月期 中間期				2026年12月期 通期		
	実績	前年同期比	計画比		修正計画	前回計画比
売上高	1,674億円	+17%	+6%	売上高	3,440億円	+ 5%
営業利益	158億円	+72%	+41%	営業利益	326億円	+18%
営業利益率	9.5%	+3.1pt	+2.4pt	営業利益率	9.5%	+1.0pt

2026年12月期 中間期実績

- CMP、TRS、ACBが好調に推移したことに加え為替効果もあり前年同期比、計画比ともに増収増益
- 2026年12月期中間期の営業利益率9.5%は2021年12月期中間期に次ぐ高水準

2026年12月期 通期計画

【通期業績予想修正の背景】

- CMP 上期好調な業績を反映したことに加え、回復トレンドが当初想定を上回る見込み
- TRS 為替効果及び船用機器の新造船及びMRO向けの増加を織り込む
- ACB 前回計画並みを維持

CMP: Component Solutions Segment, TRS: Transport Solutions Segment, ACB: Accessibility Solutions Segment, MFR: Manufacturing Solutions Segment

© Nabtesco

Nabtesco

5

業績ハイライトですが、本年度の中間期決算の売上高は、前年同期比17%増加の1,674億円、営業利益は前年同期比72%増加の158億円、営業利益率は9.5%でした。CMP,TRS,ACBが好調に推移したことに加え、為替効果もあり前年同期比、計画比ともに増収増益です。

2026年度12月期中間期実績は2021年12月期中間期に次ぐ高水準となりました。

同日通期の修正計画を公表しました。

売上高は、前回計画比5%増加の3,440億円、営業利益は同18%増加の326億円、営業利益率は9.5%に修正しました。

計画修正の背景は、CMPの上期好調な業績を反映したことに加え、回復トレンドが当初想定を上回る見込みになったこと、TRSでは、為替効果及び船用機器の新造船及びMRO向けの増加を織り込みました。

ACBにおいては、海外ドア、国内PDが堅調であり、前回計画並みを維持しています。

1-2. 2026年の事業運営方針の対応状況

Innovation In Action
Vision 2030

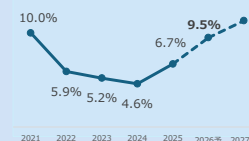
CMPの成長加速

- ・精密減速機の継続的な受注増加
- ・RV miniの顧客への納入開始



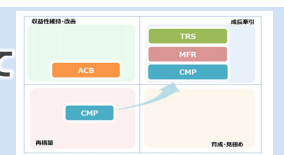
収益性の改善

- ・着実なProject 10の進捗



事業ポートフォリオの強化

- ・レジリエントな企業基盤構築に向けて着実に前進



© Nabtesco

Nabtesco

6

続きまして、2026年の事業運営方針への対応状況について説明します。この3つの項目は期初にご説明したものです。

一つ目のCMPの成長加速では、一般産業向けも含め精密減速機の継続的な受注増加がみられています。また、RV miniも発表し、予定通り顧客への納入を開始しました。

二つ目の収益性の改善については、各事業の収益性向上にむけてProject 10を進めています。

三つ目の事業ポートフォリオの強化については、レジリエントな企業基盤構築に向けて着実に前進しています。

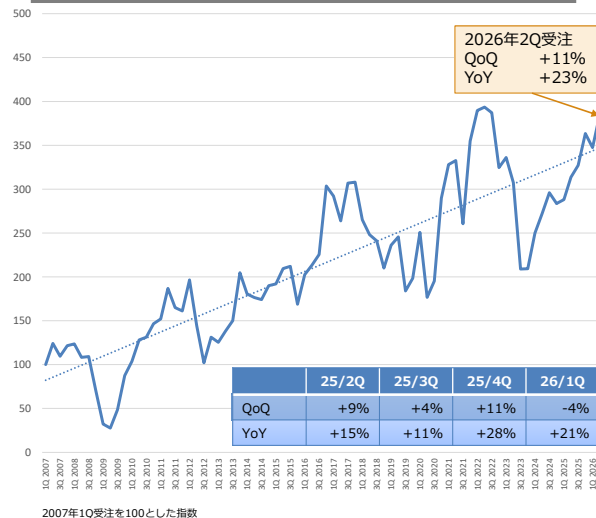
それぞれの内容についてもう少し詳しく説明します。

1-3. CMPの成長加速 | 精密減速機受注状況/生産能力

Innovation In Action
Vision 2030

■ 継続的な受注増により工場稼働率も増加したことでOPMも改善（26年中間期OPM 10.6%）

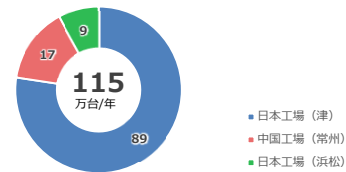
精密減速機 受注推移



生産能力と稼働率

■ 生産能力

2024/3Q～現時点



■ 各工場の稼働状況

工場	稼働率				
	25/2Q	25/3Q	25/4Q	26/1Q	26/2Q
津工場（日本）	65%	70%	70%	75%	85%
常州工場（中国）	110%	110%	115%	90%	100%
浜松工場（日本）	徐々に生産数量拡大中				

※上記稼働率は3直20日/月を前提に算出

© Nabtesco

Nabtesco

7

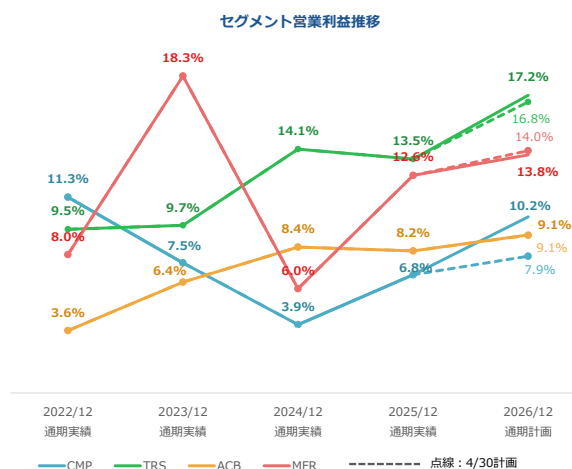
CMPの成長加速についてです。左の表は精密減速機の受注推移を表しています。精密減速機の2026年2Qの受注は、QoQ+11% YoY+23%と着実に増加しています。

受注の増加に合わせ、各工場の稼働率も2Qでは、津工場が85%、常州工場100%、浜松工場でも順調に製造しております。

1-4. 収益性の改善

Innovation In Action
Vision 2030

■ Project 10始動以降、CMPを中心に利益率は着実に改善



*2024年以降、油圧機器事業を含まず算出しております。

セグメント	2024実績 (油圧機器除く)	2025実績	2026修正計画 (7/31計画)
CMP	3.9%	6.8%	10.2%
TRS	14.1%	13.5%	17.2%
ACB	8.4%	8.2%	9.1%
MFR	6.0%	12.6%	13.8%
全社又は消去（億円） 売上高に対する比率	-123 4.4%	-96 3.1%	-98 2.8%

更なる利益率改善へ向けた施策

CMPセグメント

【対策】

- ・半導体製造装置や物流分野等成長分野向けの拡販
- ・調達費低減を含めた生産性の向上

ACBセグメント

【対策】

- ・海外PDビジネスの見直し
- ・MROの強化

© Nabtesco

Nabtesco

8

続きまして収益性の改善です。
各セグメントの営業利益率を色分けし、お示ししています。

CMPは大幅に進捗し、TRS、MFRは、ほぼ計画通りで、ACBは計画通りの進捗です。

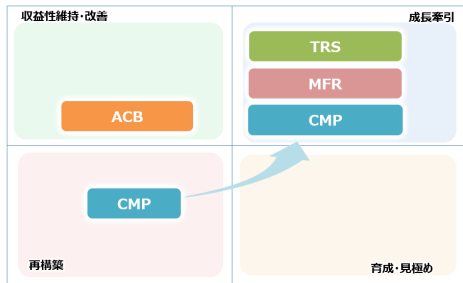
更なる収益性の改善に向けた施策として、CMPでは、半導体製造装置や物流分野等成長分野向けの拡販や、調達費低減を含めた生産性の向上による利益の押し上げを狙います。

ACBでは、海外PDビジネスの見直しを行っており、予定通り進捗しています。また、MROの強化をもう一段進めていく必要があると考えています。

1-5. 事業ポートフォリオの強化

Innovation In Action
Vision 2030

■ MROを基盤とした安定収益の確保と成長市場での売上・利益拡大を実現するポートフォリオの構築

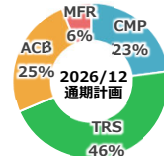
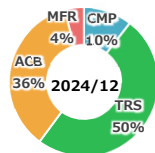


2026年のアクション：既存ポートフォリオの強化（集中）

- ・CMP：着実な受注獲得による売上拡大及び収益性改善
 - ・RV miniの投入でのラインアップ拡大によるフィジカルAI需要の取り込み
 - ・一般産業向け需要の取り込み
- ・TRS：戦略的な新規案件の獲得によるMROを含めた規模拡大
 - ・航空機器での開発投資の前倒しや製品ラインアップ拡張
 - ・船用機器の生産能力増強・開発投資増加による成長取り込み
- ・ACB：キャッシュカウとしての基盤強化
 - ・デジタル技術を活用したMROビジネス強化

■ 目指すもの

【利益構造の転換】 利益のリバランスを図る



© Nabtesco

Nabtesco

9

MROを基盤とした安定収益の確保と成長市場での売上・利益拡大を実現するポートフォリオの構築を通じて、強靱な事業体質構築を目指し予定通り進めています。2026年からは、既存ポートフォリオの強化（集中）に舵をきっています。

CMPについては着実な受注獲得による売上拡大及び収益性改善を進めています。RV miniの投入でのラインアップ拡大によるフィジカルAI向け需要の取り込みや、一般産業向けについても種まきした内容が刈り取りに進んできたと認識しています。この取り組みを通じて、トップラインの拡大に加え、収益性の改善も目指していきます。

TRSについては、戦略的な新規案件の獲得によるMROを含めた規模拡大です。航空機器での開発投資の前倒しや製品ラインアップの拡張を強化しています。船用機器の生産能力増強・開発投資増加による成長取り込みを進めてまいります。

ACBでは、キャッシュカウとしての基盤強化ということで、デジタル技術を活用したMROビジネス強化を行います。

中期計画でもご説明したデータソリューション事業の一環として、国内ではAD-Linkという顧客に即したデジタル技術、海外ではGilgen Connectというソリューションで、利益率を改善させていきたいと考えています。

利益構造の転換についても、将来像に近づいてきていると考えています。

2. 連結業績概要および見通し

常務執行役員 企画 経理 情報システム コーポレート・コミュニケーション管掌
碓井 浩

続きまして、連結業績概要および見通しについてご説明いたします。

2-1. 2026年12月期 中間期 連結実績

Innovation In Action
Vision 2030

■ 前年同期比で売上とすべての利益が増加し、営業利益率は3.0pt改善

(単位：億円)	2025/12 中間期実績 (A)	2026/12 中間期実績 (B)	前年同期比 増減額 (B-A)	前年同期比 増減率 (B/A-1)	2026/12 中間期計画 (C)	計画比 増減額 (B-C)	計画比 増減率 (B/C-1)
売上高	1,433	1,674	241	17%	1,574	100	6%
営業利益	92	158	67	72%	112	46	41%
(営業利益率)	6.4%	9.5%	3.0pt	-	7.1%	2.4pt	-
金融損益	-6	1	7	-	-	-	-
持分法投資利益	-0	32	32	-	-	-	-
税引前中間利益	85	191	106	124%	120	71	59%
親会社所有者に帰属する中間利益	65	124	59	91%	63	61	97%
一株当たり当期利益（円）	54.20	105.94			53.76		
中間配当（円）	40	41			41		

© Nabtesco

Nabtesco

11

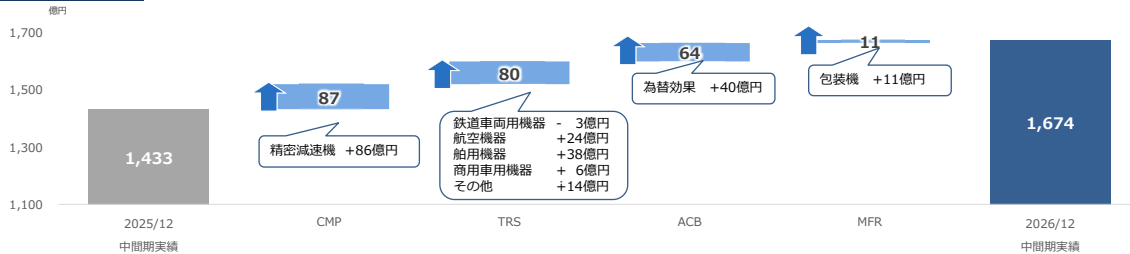
中間期の連結業績実績です。
業績ハイライトでも説明の通り、売上高、営業利益ともに大幅に増加しています。
持分法投資利益が大幅に超過したことで、中間期の当期利益が124億円ということで大幅に超過しております。

2-2. 2026年12月期 中間期 | セグメント別 前年同期比増減

Innovation In Action
Vision 2030

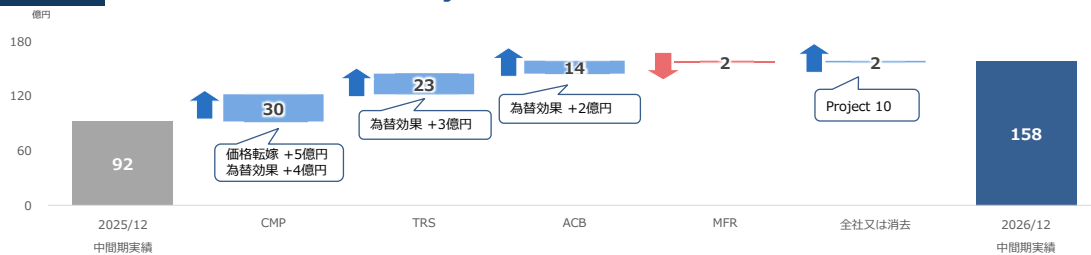
売上高

■全セグメントで需要環境が好調であり、増収となった



営業利益

■増収による増益に加え、Project 10が順調に進捗し増益



© Nabtesco

Nabtesco

12

売上高については、全てのセグメントで需要環境が好調だということもあり増収となりました。

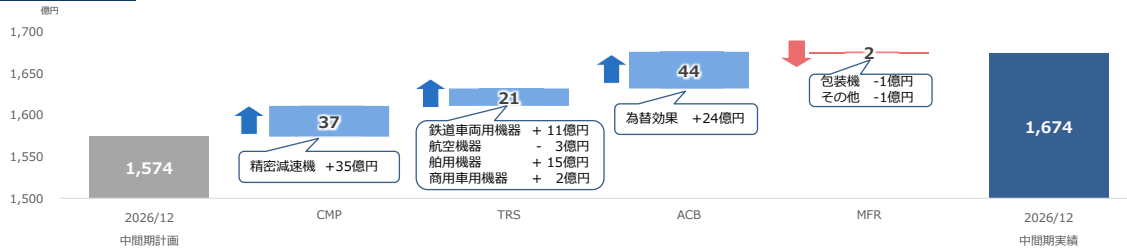
営業利益については、増収による増益に加え、Project 10による原価低減、収益性改善が順調に推移し、CMP/TRS/ACBを中心に大幅に増益になりました。

2-3. 2026年12月期 中間期 セグメント別 4/30計画比増減

Innovation In Action
Vision 2030

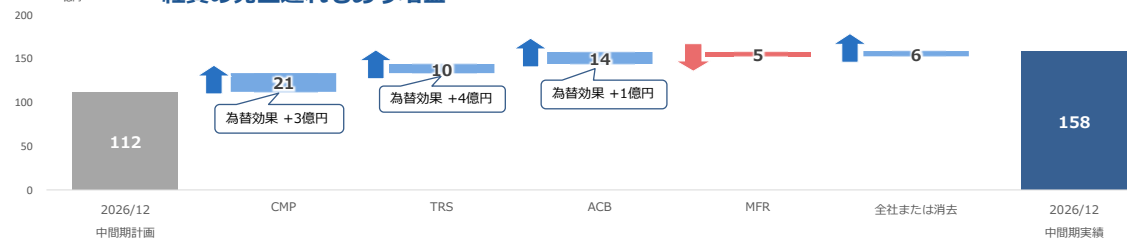
売上高

■CMP、TRS、ACBの需要が堅調であったことに加え為替効果（58億円）により計画比増収



営業利益

■増収による増益に加え、ACBセグメントでは海外建物用ドアの収益改善、為替効果、経費の発生遅れもあり増益



©Nabtesco

Nabtesco

13

次に計画比に対しての内訳です。

売上高は、前年比同様CMP/TRS/ACBでの需要が堅調であったことに加え、為替効果が58億円となり、計画比で大幅な増収です。

営業利益は増収による増益に加え、特にACBで海外建物用ドアの収益性、期初からテーマとして掲げていたものが進んでいることや、為替効果、経費発生遅れにより増益となりました。

発生が遅れた経費は下期に発生の見込みです。

■コムテスコ社（油圧機器事業）の株式譲渡により、同事業に関連する項目が減少

(単位：億円)	2025/12 期末 2025年12月31日	2026/12 2Q (中間期) 末 2026年6月30日	差異
資産	4,640	4,559	-81
（現金等）	733	996	262
（売上債権）	786	691	-96
（棚卸資産）	528	579	50
（売却目的で保有する資産）	437	—	-437
（非流動資産）	2,076	2,184	108
負債	1,752	1,595	-156
（借入金）	450	434	-16
（売却目的で保有する資産に直接関連する負債）	123	—	-123
資本	2,888	2,964	75
売却目的で保有する処分グループに関連するその他の資本の構成要素 （非支配持分）	19	—	-19
親会社の所有者に帰属する持分	169	119	-50
親会社の所有者に帰属する持分	2,719	2,845	126
親会社所有者帰属持分比率：	58.6%	62.4%	3.8pt

これらを踏まえた中間期のバランスシートの状況です。

コムテスコ社（油圧機器事業）の株式譲渡に伴い、売却目的で保有する資産、売却目的で保有する資産に直接関連する負債、売却目的で保有する処分グループに関連するその他の資本の構成要素が減少しています。

結果、自己資本比率（親会社所有者帰属持ち分）は62.4%と前年末と比べ増加しています。

2-5. 2026年12月期連結 通期見通し

Innovation In Action
Vision 2030

■ 着実に利益を積み上げ増収増益の見通し

(単位：億円)	2026/12 通期計画(4/30) (A)	2026/12 通期計画(7/31) (B)	計画比 増減額 (B-A)	計画比 増減率 (B/A-1)	2025/12 通期実績 (C)	前期比 増減額 (B-C)	前期比 増減率 (B/C-1)
売上高	3,270	3,440	170	5%	3,079	361	12%
営業利益	277	326	49	18%	207	119	57%
(営業利益率)	8.5%	9.5%	1.0pt	-	6.7%	2.7pt	-
税引前利益	286	363	77	27%	217	146	68%
親会社所有者に帰属する当期利益	186	241	55	30%	157	84	54%
1株当たり当期利益 (円)	158.72	206.20	47.48	30%	131.56	75	57%
ROIC	5.8%	6.8%			4.4%		
ROE	6.5%	8.9%			5.8%		
1株当たり配当金 (円)	82.00	82.00			80.00		
DOE	3.6%	3.5%			3.6%		
(配当性向)	54.6%	39.8%			60.8%		
【為替前提】							
USD	145.00	154.29			149.78		
RMB	20.50	22.27			20.94		
EUR	170.00	179.91			169.53		
CHF	185.00	195.74			181.13		

上記1株当たり当期利益の計算に際しては、2026年7月31日に開示した自己株式取得を反映し計算しています。

© Nabtesco

Nabtesco

15

中間期の実績を踏まえ、通期計画を見直しました。

冒頭のハイライトでもご説明した通り、売上高が増加し、結果営業利益率は9.5%と、当初計画とくらべて増加しています。

結果1株当たり当期利益は、158.72円が、206.20円となります。

KPIも改善しています。ROEも8.9%まで改善しています。

DOEは3.5%となり、1株当たり配当金に変更ありません。

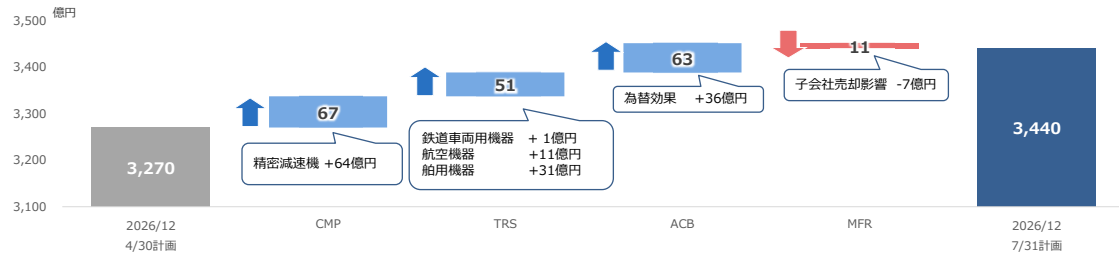
前期比に対しても大幅な増収増益となりました。

2-6. 2026年12月期 通期計画サマリー | 4/30計画比

Innovation In Action
Vision 2030

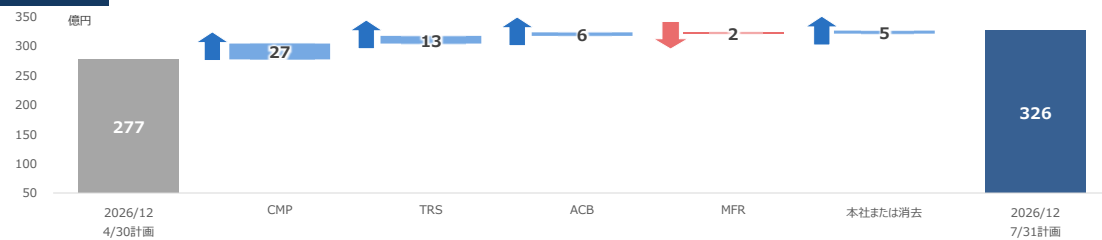
売上高

■ CMP、TRS、ACBの好調な上期売上や為替効果を踏まえ通期計画を上方修正



営業利益

■ 上期の好調な実績をうけ、通期計画を上方修正



© Nabtesco

Nabtesco

16

前回計画と新計画を比較しています。
 CMP/TRS/ACBが伸長し、大幅に増収となる見込みです。
 特にTRSでは航空、船用が増収を見込んでいます。

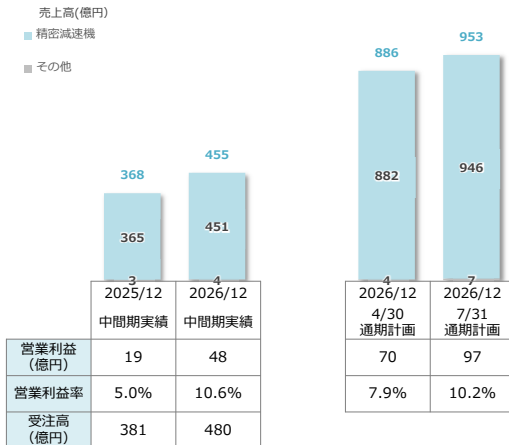
MFRでは子会社(CMET社)の売却影響があり減収を見込んでいます。

営業利益は増収による増益です。

2-7-1. CMPセグメント業績 - 2026年12月期 -

Innovation In Action
Vision 2030

中間期 YoY 増収 増益
通期計画比 増収 増益



セグメント業績（前年同期比）

事業	業績
精密減速機	【ロボット向け】中国・韓国の自動車メーカーで設備投資需要が回復 【ロボット以外】工作機械、半導体製造装置向けで需要が回復
営業利益	増収による増益と、価格転嫁効果により収益性改善 ただし、一部経費等の発生遅れあり

通期見通し

事業	市場環境
精密減速機	【ロボット向け】 ・日本 安定的な自動化ニーズにより大きな需要環境の変化なし ・中国 中国では新興EVメーカーで設備投資需要堅調 ・北米 一部自動車メーカーで需要回復の動きを見込む ・欧州 引き続き需要の低迷を見込む 【ロボット以外】 工作機械・半導体製造装置向けに需要は堅調

トピックス

RV miniの販売は2026下期から納入開始

セグメントごとの状況です。

中間期の前年同期について、売上高、営業利益、受注高が増加しています。

背景には、ロボット向けで中国・韓国の自動車メーカーでの設備投資需要が回復していることがけん引しています。

ロボット以外でも工作機械や半導体製造装置向けの需要が回復しています。

営業利益は増収による増益と、これまで進めてきた価格転嫁により増益です。

一部、経費等の発生おくれもあります。

通期の見通しについてです。

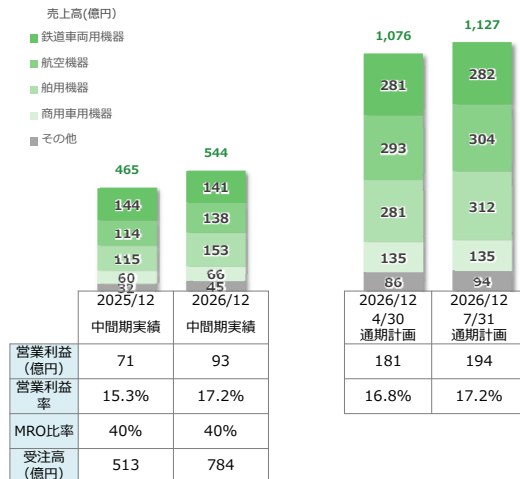
売上の増加に伴う増益と、収益性の改善も見られます。

上期の状況に変化はないととらえていますが、北米での自動車メーカー向け需要回復を見込んでいます。

2-7-2. TRSセグメント業績 - 2026年12月期 -

Innovation In Action
Vision 2030

中間期 YoY 増収 増益
通期計画比 増収 増益



セグメント業績（前年同期比）

事業	業績
鉄道車両用機器	国内および中国地下鉄向けは堅調も、欧州子会社売却により微減
航空機器	民間航空機向けでの需要が増加し増収
船用機器	中国を中心とした新造船向け需要とMRO需要が好調で増収
商用車用機器	国内市場の緩やかな需要回復もあり増収
営業利益	増収により増益
受注高	2Qの受注トレンド(YoY)：航空機器+177% 船用機器+29%

通期見通し

事業	市場環境
鉄道車両用機器	国内の新車投資抑制傾向継続
航空機器	【防衛】好調な需要が継続 【民間】生産ペース増加
船用機器	新造船向けおよびMROとも好調な需要が継続
商用車用機器	国内堅調、東南アジア市場回復の動きあり

© Nabtesco

Nabtesco

18

TRSについてです。

中間期の前年同期比では増収増益、営業利益率も改善しています。受注高も大幅に増加しています。

背景には、鉄道車両用機器は、国内および中国地下鉄向けは堅調も、欧州子会社売却によりトータルでは若干微減ということになりました。

航空機器は民間航空機向けでの需要が増加し増収です。

船用機器は中国を中心とした新造船向け需要とMRO需要が好調で増収です。

商用車用機器は国内市場の緩やかな需要回復もあり増収です。

受注高については、特に航空機器がけん引しています。2Qの航空機器の受注はYoYで177%となりました。船用機器も寄与しています。

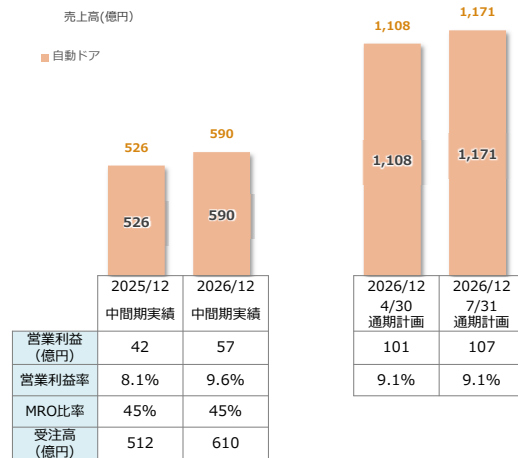
通期については大幅ではないものの、計画比増収増益となりました。営業利益率についても若干ではあるものの改善する見込みです。

2-7-3. ACBセグメント業績 - 2026年12月期 -

Innovation In Action
Vision 2030

中間期 YoY 増収
通期計画比 増収

増益
増益



セグメント業績（前年同期比）

※PD:プラットフォームドア

事業	業績
自動ドア	【国内】新規建物用ドアは需要の端境期となり微減 【海外】欧州、北米で建物用ドア需要が回復
PD※	【国内】プロジェクトが進行し増収 【海外】既存案件が進捗し減収
営業利益	増収による増益に加え海外事業の収益性改善

通期見通し



事業	市場環境
自動ドア	【国内】新規建物用ドアは需要の端境期が継続 【海外】欧州、北米市場は想定通り堅調な需要が続く見込み
PD※	【国内】堅調な需要が継続する見込み 【海外】設備工事付きの継続案件として香港、グラスゴーを残すのみ

© Nabtesco

Nabtesco

19

ACBは中間期でみると前年同期比で増収増益で営業利益率も9.6%まで改善しています。

背景としては、自動ドアは国内は端境期ですが、欧州北米での回復がけん引しています。PDについて海外は設置工事込みの案件は撤退方向だが、国内はプロジェクトが順調に進捗しています。

これらの増収による増益に加え、海外事業の収益性が改善し増益となりました。

通期の状況に大きな変化はなく、上期の状況が継続するとみています。

2-7-4. MFRセグメント業績 - 2026年12月期 -

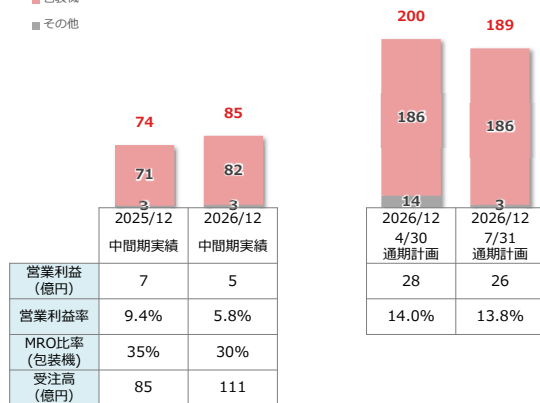
Innovation In Action
Vision 2030

中間期YoY
通期計画比

増収 ↗ 微減益 ↘
減収 ↘ 微減益 ↘

売上高(億円)

■ 包装機
■ その他



セグメント業績（前年同期比）

事業	業績
包装機	国内の食品メーカーでの設備更新需要、生産増強の動きがあり増収 海外案件はアジアを中心に減収
営業利益	海外向け主機売上減少により微減益

通期見通し



事業	市場環境
包装機	【国内】 食品メーカーを中心に設備投資は好調が継続 【海外】 欧州や中国では需要回復の動きあり

トピックス

・ 6/30 CMET社（3Dプリンター事業）をベストオーナーへ事業譲渡

© Nabtesco

Nabtesco

20

MFRの中間期は前年同期比で増収も利益は若干の未達です。

受注高については増加しており、マーケットとしては国内を中心に非常にいい状況です。一方、海外はスローペースということで、今回の中間期の業績となっている。

ただし通期みると国内の堅調継続と、海外でも需要の動きがあるので包装機としては見通し変更なしですが、CMET売却した分の売上が減少しています。

中期経営計画の還元方針

DOE 3.5%を目安とした安定配当および機動的な自社株買い

自己株式取得の背景

1. 資本効率の向上（自己資本比率の適正化）
2. 「成長投資」、「財務健全性」、「株主還元」のバランスを取りながら機動的に還元

取得の概要

- 期間 2026年8月3日～2026年11月30日
- 総額 150億円（上限）（2026年12月期通期計画 総還元性向102%）
- 総数 400万株（上限）
- 方法 市場買付け
- 消却予定 2026年12月15日

自己株式の取得についてです。

当社の還元方針は、DOE 3.5%を目安とした安定配当および機動的な自社株買いということ、中期経営計画の際に発表しています。

この方針のもと、資本効率の向上（自己資本比率の適正化）、自己資本比率が62.4%まで上がっている状況であることや「成長投資」、「財務健全性」、「株主還元」とのバランスを取りながら、今回の機動的な還元につながっています。

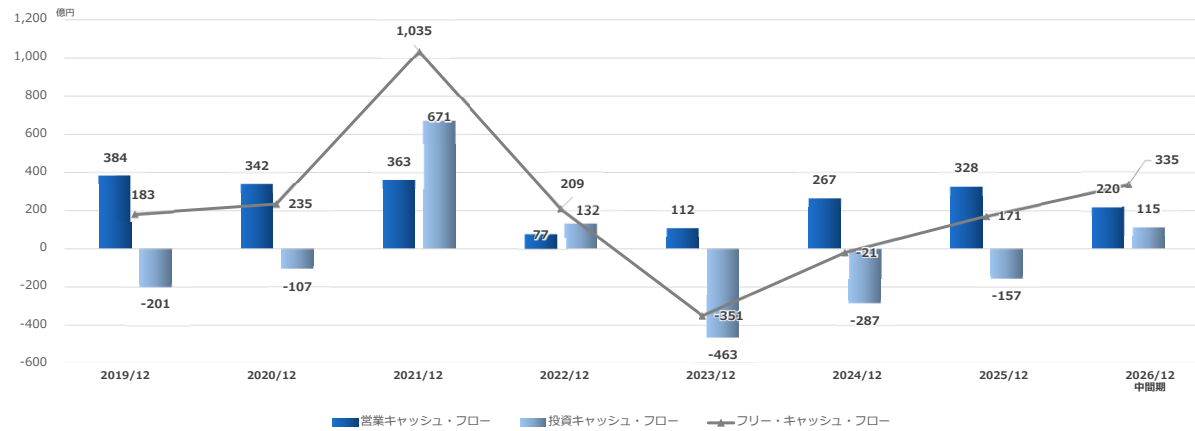
概要については、すでにアナウンスした通りですが、上限額150億円としており、取得後、全て消却予定です。実施した場合の総還元性向は102%となります。

以上で説明を終わります。

3. 補足資料

キャッシュ・フロー

Innovation In Action
Vision 2030

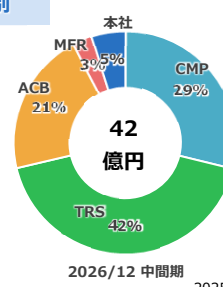
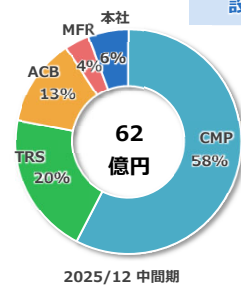


■ 設備投資の増額は主に老朽化設備の更新によるもの

(単位：億円)	2025/12 中間期実績 (A)	2026/12 中間期実績 (B)	前年同期比 (B-A)
設備投資額	62	42	-21
研究開発費	53	62	8
減価償却費	81	86	5

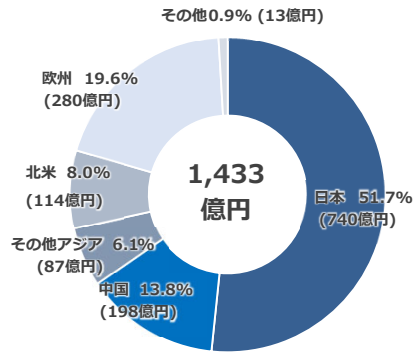
2026/12 通期計画 2/12	2026/12 通期計画 7/31
125	130
127	132
168	165

設備投資額 セグメント別



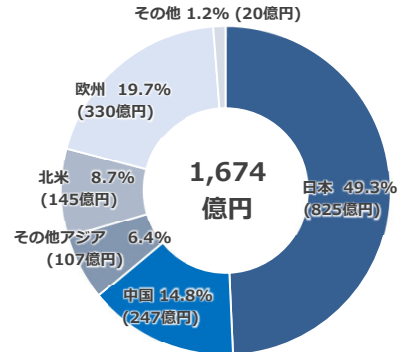
2025年度実績には油圧機器を含んでおりません

2025/12 中間期実績



海外売上高	693億円
海外売上高比率	48.3%

2026/12 中間期実績



海外売上高	849億円
海外売上高比率	50.7%

■ 為替レート

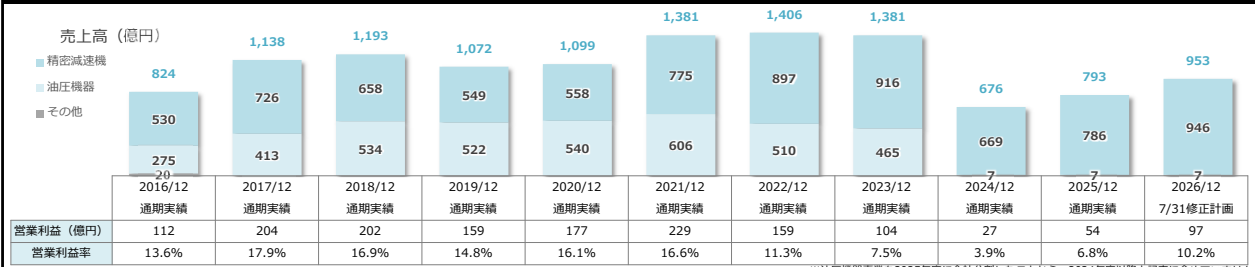
(単位：円)	2025/12 中間期実績	2026/12 中間期実績	2026/12 下期計画	2026/12 通期計画
USD	147.48	158.59	150.00	154.29
RMB	20.47	23.05	21.50	22.27
EUR	162.24	184.83	175.00	179.91
CHF	172.51	201.48	190.00	195.74

■ 為替感応度（為替が1円変動したときの影響額）

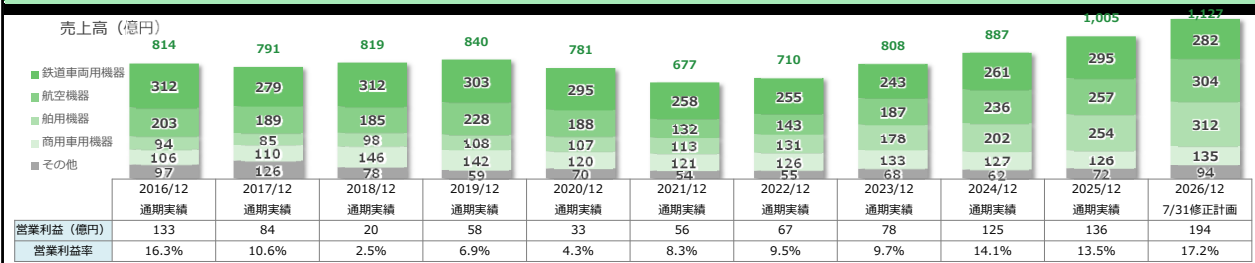
(単位：百万円)	2026/12 中間期実績		2026/12 通期計画	
	売上	営業利益	売上	営業利益
USD	86	30	218	63
RMB	802	119	1,568	246
EUR	39	4	85	9
CHF	124	6	260	11

コンポーネントソリューションセグメント (CMP)

Innovation In Action
Vision 2030



トランスポートソリューションセグメント (TRS)



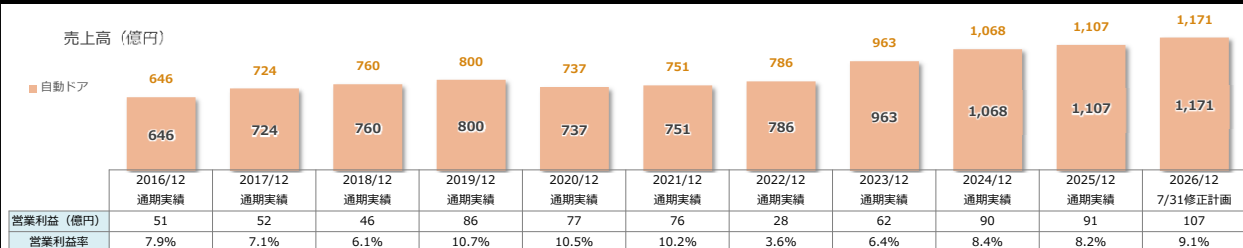
© Nabtesco

Nabtesco

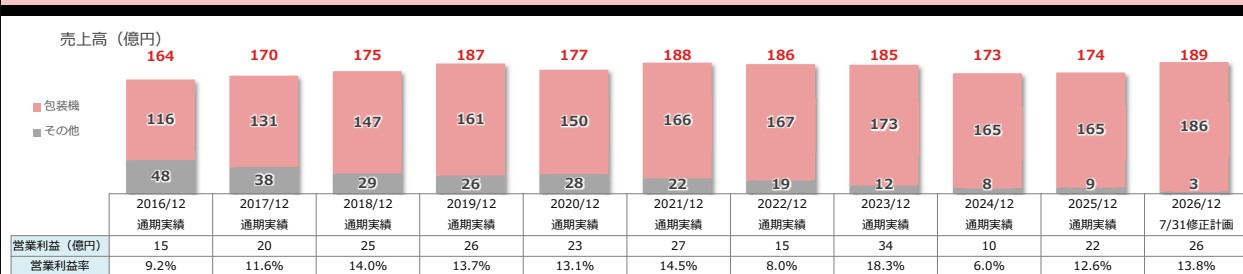
27

アクセシビリティソリューションセグメント (ACB)

Innovation In Action
Vision 2030



マニュファクチャリングソリューションセグメント (MFR)



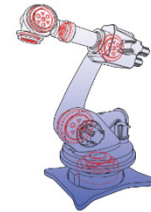
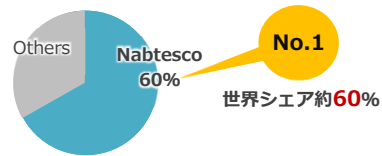
© Nabtesco

Nabtesco

28

精密減速機

■ 中大型産業用ロボットの関節用途



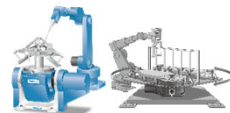
産業用ロボット以外の用途事例



工作機械
ツールチェンジャー / トラニオンテーブル



溶接
ポジショナー



半導体製造装置
チャンバー開閉装置 / 移載装置



通信用
アンテナ



医療用
X-ray



物流用
AGV/AMR

主要顧客 (敬称略)

■ 精密減速機

産業用ロボット：ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)

工作機械：ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

注：シェアは当社推計

鉄道車両用機器

■ 鉄道車両用ブレーキシステム



Others



Nabtesco 50%

No.1

国内シェア約50%

■ 鉄道車両用ドア開閉装置



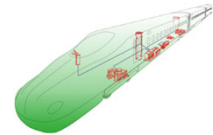
Others



Nabtesco 60%

No.1

国内シェア約60%



航空機器

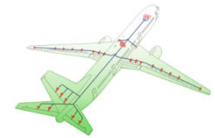
■ フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)



Nabtesco
100%

No.1

FCAの国産機
シェア約100%



主要顧客 (敬称略)

■ 鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、日立製作所、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け、海外鉄道各社

■ 航空機器

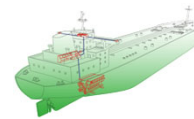
Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社

船用機器

■ 船用エンジン遠隔制御システム



世界シェア約**40%**
(国内シェア約45%)



商用車用機器

■ 商用車用ウェッジチャンバー



No.1 国内シェア約**80%**

■ 商用車用エアドライヤー



No.1 国内シェア約**60%**



主要顧客 (敬称略)

■ 船用機器

ジャパンエンジンコーポレーション、川崎重工業、マキタ、日立造船マリンエンジン、三井E&S
HD Hyundai Heavy Industries (韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、Hanwha Engine (韓)

■ 商用車用機器 いすゞ自動車、日野自動車、三菱ふそうトラック・バス、UDトラックス

アクセシビリティソリューションセグメント (ACB) 主要製品

Innovation In Action
Vision 2030

自動ドア

■自動ドア開閉装置



主要顧客 (敬称略)

各種建物用自動ドア：大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関
プラットホームドア：JR・民鉄各社、各国都市交通向け

マニファクチャリングソリューションセグメント (MFR) 主要製品

包装機

■レトルト食品用充填包装機

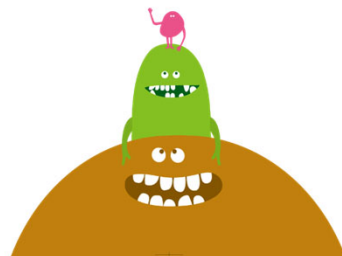


主要顧客 (敬称略)

■包装機

DM三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

うごかす、とめる。
Nabtesco



©Nabtesco